



## ノルドストリーム1、8月末から3日間供給停止 点検で

[19日 ロイター] - ロシア国営ガスパロムは19日、欧州に天然ガスを送る主要パイプライン「ノルドストリーム1」について、圧縮機の点検のため8月31日から9月2日までガス供給を停止すると発表した。

ノルドストリーム1の稼働率はすでに20%に低下しており、欧州のガス供給に一段の混乱が生じる恐れがある。

ガスパロムは、点検終了後に故障などがなければ、日量3300万立方メートルの供給を再開する計画とした。ノルドストリームの通常の輸送能力は日量1億6700万立方メートル。

点検は独シーメンスと共同で行われるという。





## サハリン2新会社が始動、「生産と輸出継続」

ロシア極東の石油・天然ガス開発事業「サハリン2」の事業を引き継いだ新会社「サハリンスカヤ・エネルギー」は19日、業務を開始したと声明で発表した。生産と輸出は継続されているとしている。

サハリンスカヤ・エネルギーのアンドレイ・オレイニコフ執行取締役は声明で「生産活動は完全に実施されている」とし、全ての既存義務の履行を引き続き絶対的に優先すると表明。原油と天然ガスの生産量は安定した水準に維持されており、2022年に承認されたスケジュールに従って買い手側に供給されているとした。

サハリンスカヤ・エネルギーは8月5日に登記。同社への参画について、従来の運営主体のサハリンエナジーに出資していた三菱商事や三井物産などは9月初旬までに回答することになっている。



## 資源インフレ、解けない鎖 分断で深まる供給制約

「喜ばしいことだ。ガソリン価格が1ドル以上上がっている」。バイデン米大統領は12日、こうツイートした。全米自動車協会（AAA）がまとめる平均価格は今月、5カ月ぶりに1ガロン（約3.8リットル）4ドルを割り込んだ。

ロシアのウクライナ侵攻で3月に一時1バレル130ドルを突破した原油相場は今、世界的な金融引き締めが招く景気鈍化と需要減少への警戒から90ドル前後まで下落した。景気動向に敏感な銅も侵攻前に比べて2割下がり、穀物は同1割程度安くなった。金融市場で過度なインフレ警戒が和らぎ、日経平均株価が一時2万9000円台を回復するなど国内外の株式相場も上向いている。空前の資源高は収束に向かっているのか。少なくとも商品市場の関係者から楽観論は聞こえてこない。

### 生産能力5割失う

背景にはウクライナ侵攻と米欧の対ロシア制裁で、エネルギーを中心に資源の供給網が分断され、世界の商品市場が一変したことがある。欧州連合（EU）ではロシア産石炭の輸入禁止措置が11日から発効した。さらにロシア産石油の輸入を段階的に減らして年末までに停止する。ロシア側は中国やインドなど制裁に参加しない国に対して割安な原油や石炭を供給する一方、西側には天然ガスなどの供給を絞っている。

ロシア国営ガスプロムは7月下旬以降、ドイツにつながる主要パイプライン「ノルドストリーム」の供給量を8割削減。欧州の天然ガス価格は侵攻前の3倍近くに高騰し、暖房需要が高まる冬場のガス不足を防ごうと各国は消費の削減を急ぐ。

エネルギー不足が直撃する業界の一つが、電力を多く消費する非鉄金属メーカーだ。欧州の業界団体のユーロメタルは7月下旬「さらに多くの設備が永久閉鎖の危機にさらされる」と訴えた。同団体は「欧州では亜鉛とアルミの生産能力の5割が失われている」といい、欧米ではアルミがアジアより割高な価格で取引される場面が目立つ。

食料生産に不可欠な肥料のメーカーも危機に直面する。ノルウェーの肥料大手ヤラは7月、天然ガス価格の高騰を受けて「これまでに年間130万トンのアンモニアと、肥料製品170万トンの生産能力を削減した」と明らかにした。肥料の不足と価格高騰は、穀物などの生産にも悪影響を及ぼす。ウクライナ産の輸出再開で高騰が一服した穀物価格も再上昇のリスクをはらむ。

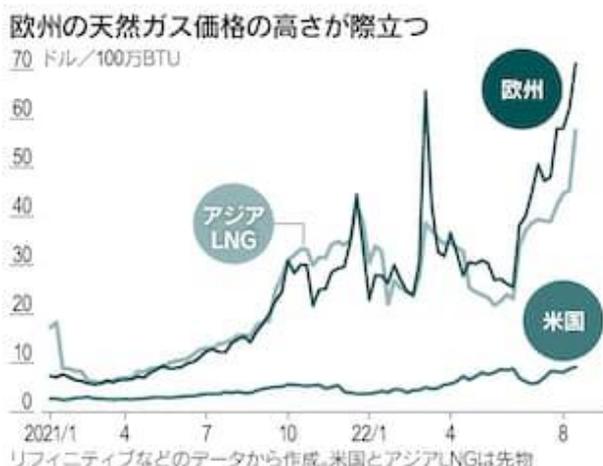
### 慢性的な投資不足

新型コロナウイルス禍以降のサプライチェーンの混乱や脱炭素の潮流も尾を引いている。「石油セクターへの慢性的な投資不足が余剰生産能力を低下させている」。石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟の主要産油国で構成するOPECプラスは米国などが求める増産が進まない理由をこう説明する。ナイジェリアなど一部の加盟国は生産目標割れが長引き、OPECプラス全体でも生産実績が計画に届かない。

供給網や労働市場の逼迫で資材費や人件費も上昇。好業績に沸く米エクソンモービルなど石油メジャーも投資には慎重だ。

制裁で物流も停滞する。英国を含む欧州は制裁に参加しない国と石油取引を続けるロシアの戦費調達を断つため、遅くとも12月から一定水準を上回る価格で売買されたロシア産石油を積んだ船舶に保険を提供することも禁止する方針だ。

マーケット・リスク・アドバイザーの新村直弘共同代表は「供給制約は新常态（ニューノーマル）になり得る。ロシアへの制裁に参加する西側諸国とロシアと取引を続ける東側で、同じ物の価格が異なる『一物二価』の時代が到来するかもしれない」と指摘する。各国中銀の懸命な利上げは需要を冷やす効果はあっても供給制約の改善には効きづらい。資源供給の「鉄のカーテン」がインフレ鎮圧を阻む。





## 廃潤滑油再生が 環境省事業採択

### ENEOS

ENEOSは、同社が提案した廃潤滑油の再生プロセス構築が環境省の公募事業に採択されたと発表した。潤滑油ベースオイルに再生するもの。今年度から2年間技術検証し、事業化を目指す。

環境省公募事業の「脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」に、このほど採択された。ENEOSは、国内の廃潤滑油を再生するプロセス構

築に向けて①廃潤滑油回収システムの方針策定（回収チャネルごとの廃油性状を含む）②再生ベースオイル精製技術の確立の技術検証に取り組む。

国内の廃潤滑油の多くは二酸化炭素を排出するサーマルリサイクルがなされている。廃潤滑油を潤滑油製品の主要基材であるベースオイルとしてマテリアルリサイクルすることができれば、潤滑油のライフサイクル全体で排出するCO<sub>2</sub>を削減でき、ベースオイルの安定供給にも寄与する。

## 製品値上げ

PS系シユリン  
クフィルム50円

三菱ケミカルグループ

三菱ケミカルグループ

は、9月1日出荷分から

ポリスチレン系シユリン

クフィルム「DXLフィ

ルム」を1キログラムあたり50

円値上げする。原油・ナ

フサなどの高騰で粗原料

の価格が上昇しているこ

とに加え、生産設備維持

や物流などの諸費用の上

昇によって事業環境が悪

化している。継続的な合

理化に取り組んできた

が、現在の価格体系では

安定供給の維持が困難と

判断。2月に表明した価

格改定に追加するがたち

で実施する。

出光興産、水添石

油樹脂を60円以上

出光興産は、9月1日

出荷分から水添石油樹脂

「アイマープ」を1キログ

あたり60円以上値上げす

トが増加。コスト低減に  
取り組んでいるが、自助  
努力で吸収できる水準を  
超えており、昨年12月に  
続いて価格を改定せざる  
を得ないと判断した。

合成ゴム80円

UBEエラストマー

は、9月1日出荷分から

合成ゴム「UBE POL

BR」「UBE POL

VCR」を1キログラム

あたり80円値上げする。原燃料

の高騰にともない、製造

コストが自助努力で吸収

できる範囲を大幅に超え

て上昇している。価格改

定によって、安定供給の

維持と事業収益の改善を

図る。

9月から過酸化

水素を20円以上

宇部MC過酸化水素

は、9月1日出荷分から

過酸化水素をローリーで

1キログラムあたり20円以上、

その他荷姿で25円以上値

上げする。値上げ表明は

2021年10月以来。原

燃料価格の上昇を製品価

格に転嫁し、事業収益を

マグネシウム製品  
10月出荷分から

ナイカイ塩業

ナイカイ塩業は、マグ

ネシウム製品を10月1日

出荷分から値上げする。

上げ幅は、水酸化マグネ

シウム（水マク）スラリ

ーが固形品換算で1キログ

あたり6円以上、水マク

乾燥品は12円以上、炭酸

マグネシウムが6円以

上。今春に原価や燃料費、  
物流費などの上昇を背景  
に各製品とも価格を引き  
上げたが、ここに至って原  
料や燃料などのコストが  
一段高となっているた  
め、2度目の価格改定に  
踏み切る。

同社は今春、燃料費や  
水マクの原料の一つであ  
る生石灰の価格上昇など  
を理由に、マグネシウム  
製品の値上げを実施。4  
月1日出荷分から水マク  
で10%、炭酸マグネシウ  
ムで15〜20円などの上げ  
幅を設定し、各製品とも  
おおむね浸透した。

その後、燃料費や生石  
灰が前回の製品価格改定  
時から一段高となり、自  
助努力で吸収できる水準  
を超えている。いずれの  
製品も内需が堅調に推移  
しているなか、安定供給  
を継続するためには再度  
コストアップ分を転嫁せ  
ざるを得ないと判断し  
た。塩化マグネシウムな  
ど他の製品についても、  
今後個別に対応していく。